


鳥居を眺めます

日本には神を^{まつ}祀る10万社を超える神社、祠（ほこら）があります。お祭りやお正月には近所の神社にお参りされることがあると思います。

神社の建物には本殿、拝殿、神楽殿の主要建物があります。本殿がなく拝殿だけ、本殿と拝殿が一緒になっている神社があり、又神楽殿がない神社は多いですね。

しかし祠のような小神社を除くとだいたいの神社にも鳥居だけは必ずあります。

今回はこの鳥居について見てみたいと思います。

神社の入り口や境内に通常二本足と二本の横木の組み合わせで立っているあれです。地図記号で神社は「」。このように鳥居の形で表します。ちょっと大きめの神社では複数あります。表の方から一の鳥居、二の鳥居、三の鳥居とか言われます。数え方の単位は一基、二基……基と数えます。

それでは先ず鳥居と何でしょう。名前の言われは、いつからそう呼ばれているのかです。

鳥居は神門の事でしょう。

語源いくつも説があって定まりません。

宛て字説では、海幸彦と山幸彦の物語から山幸彦が釣り針を探して海神の宮へ赴いて、宮の門の近くの木に登って様子をうかがっていたところを、木の下の方の井戸に映った姿を海神の娘に見つかる場面があります。そこから「門（と）＝鳥（と）の井」→「鳥居（とりい）」があります。

外に「通入（とうい）」→「鳥居（とりい）」。

いずれもかなり強引に思えますね。

非宛字説では、天の岩戸にこもった天照大神に対し、岩戸の前の止まり木に長鳴鳥を止まらせて鳴かせた。この止まり木が鳥居。

人は鴨居（家の敷居）、神は鳥居という。

まあどれもにわかに信じられない話です。言い伝えとってください。

鳥居の出現ですが、これは10世紀に入ってからが定説でしょう。文献史料がこの頃から出てきます。

日本の神の出現は古事記、日本書紀によらずとも有史以前ことでしょう。神

社がいつ出来たかははっきりしませんが、鳥居の出現は少し遅いように思えます。

鳥居はどうやってあの形となり、元々どこからやって来たのでしょうか。

一説では、日本の神様の祭場表示、即ち神様の降臨される神域（結界）は木の柱で表されました。これが神域の広域化でこの木が門に発展していったとのこと。

もう一つは仏教伝来によって中国から伝えられたとの説です。

鳥居は華表とも言いますが、極楽浄土への求道の門であるのが華表です。密教において、護摩壇の門を鳥居と言うことからきている。

仏教関係者はこの説を取る人が多いのです。

それでは鳥居その物についてお話します。鳥居は簡単に言うと前記の通り「日本の柱と二本の横木の組みあわせ」になるのですが、実際の鳥居はここからいくつも変化して何十種類もの形が出来上がります。ついに柱も三本、四本の柱のものも出てきます。

材質です。

木造、石造り、鉄製、銅製、陶製、コンクリート製の鳥居があります。木造は檜、杉、楠、けやき等を使用します。石造りは御影石を使うことが多いです。通常石の中は空洞にします。

大正以降はコンクリート製が出てきました。戦後建築された鳥居はコンクリート製が圧倒的に多くなりました。

大きさの日本一を見てみましょう。

木造では、安芸宮島の厳島神社の鳥居で高さ16,6メートル。

石造りでは、日光東照宮の一の鳥居で高さ13,2メートル。

青銅製では、靖国神社の第二鳥では、居高さ25メートル。

コンクリート製では、熊野神社本宮の鳥居で高さ42メートル。

さて鳥居は80種類とも100種類とも言われていますが、ここでは基本的な形で我々が普段神社でよく見られる鳥居のいくつかを取り上げてみます。

鳥居の種類は大きく分けてしんめい神明系とみょうじん明神系に分けるのが一般です。

神明は天照大神で伊勢神宮系の神社で、明神はそれ以外の一般の神を言います。例えば稲荷大明神とか南無大明神と言います。

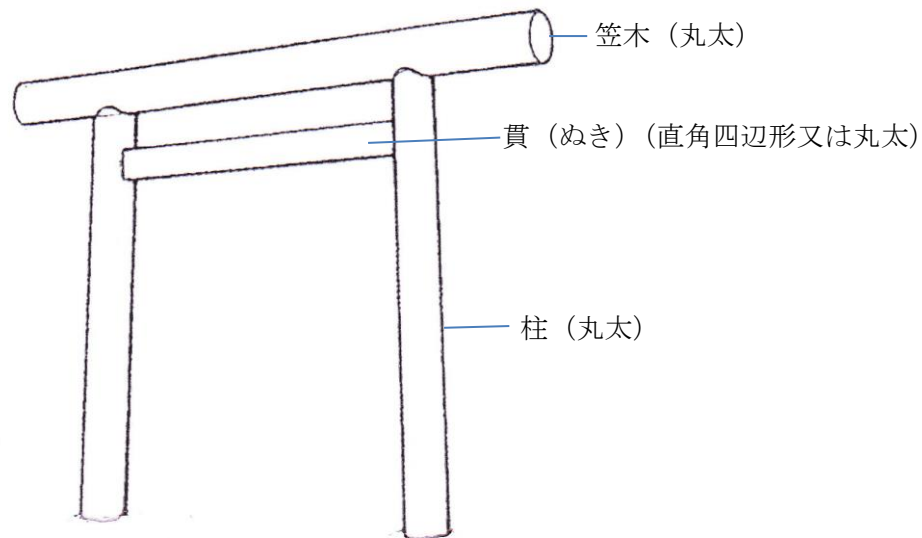
神と明をひっくり返しただけでややっこしいので、A神明系とB明神系とA・Bを加えます。

先ずA神明系（しんめい）の鳥居です。

上部の横木（^{かさぎ}笠木）が一本でその下に補助の横木（^{ぬき}貫）が一本で横木は計二本です。

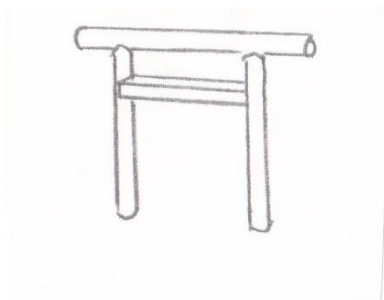
柱は丸太で二本の横木を支えます。柱は木の場合は全体の三分の一は地中に埋め込まれます。直線系のシンプルな構造です。地図記号もここから持ってきています。

標準形として下図をご覧ください



この A 神明系鳥居の標準形から次の形があります。

①靖国鳥居形



笠木はかんなで削られた（化粧仕立ての丸太、貫（ぬき）は直角四辺形（平賀と言います）、柱は丸太です。柱は垂直のものと少し開いているもの（ころびがあると言います）もあります。材質は元々は木や石でしたが、青銅、鉄製、コンクリート等もあります。

靖国神社は明治になって出来た神社で、この形の鳥居の発祥です。

東京や周辺の地域の神社で多く見られます。

神明形の代表的な形と言えます。

②黒木鳥居形



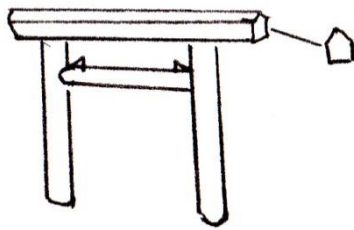
笠木、貫、柱も木の皮をむかない丸太の原木を使用します。

野宮神社（京都）にあります。外に例が少ないです。

③白木鳥居形

②黒木鳥居の原木の皮をむいたもの。伊勢神社系の神明神社で見うけられません。図は上記②を参照ください。

④伊勢鳥居形

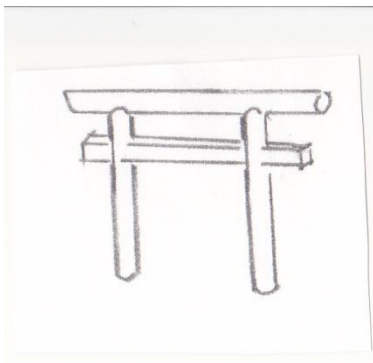


笠木は丸太ではありません。断面が五角形の角材です。笠木の先（鼻と言います）は斜めに切ってあります。

（ \ / のように）。

笠木に軽い反りがあります。このような笠木の形は B の明神形ではありますが、A の神明形では伊勢鳥居だけです。

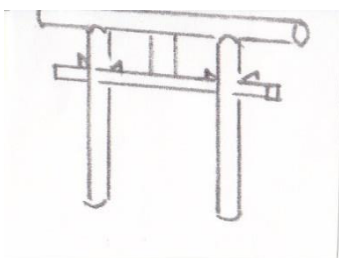
⑤鹿島鳥居形



笠木、柱、貫とも皮をむいた自然木の丸太。貫は柱の外にでている。貫が左図平賀（直角四辺形）のものもあります。笠木の先（鼻）は斜めに切っています。

鹿島神宮や香取神宮で見られます。

⑥宗忠神社鳥居形



鹿島神宮鳥居の笠木を化粧仕立てにして、額束（がくづか）を付けたものです。

額束は笠木と貫の間につけた額です。神社の名前を書きます。額は B 明神鳥居では多いのですが

Aの神明鳥居では宗忠鳥居だけです。

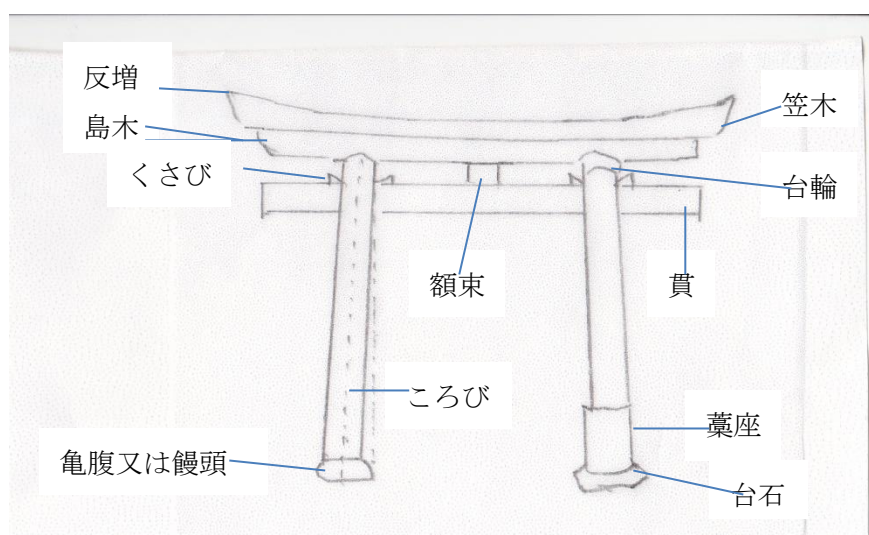
この外に春日作りや八幡作りもありますが、今日ほとんどありませんので割愛します。

次にB明神系（みょうじんけい）の鳥居です。

笠木、貫、柱はA神明形鳥居と同じようがありますが、更に笠木の下に島木という木がそえられています。

笠木には反り（そり）、反り増しがあります。柱には転び（ころび）があります。（開いている）

これについては下記モデル略図をご覧ください。



（右と左の柱の仕立ては実際は左右対称です。）

笠木は中央から反りがあり更に先端が更にカーブする（反増）があるもの。又先端だけ反増だけのものもあります。何故反りを入れたのかですが、直線仕立ての日本建築に対し、仏教建築の影響を受けたと言われていています。A神明系ではこの反りはめったに見うけられません。笠木は六角の角材か四角の角材です。先は斜めに切ってあります（たすき切り）。

次に笠木の下にあり、笠木の補助材のような島木です。何故あるのかははっきりしませんが笠木がカーブしたために補助材が必要になったと言われていています。

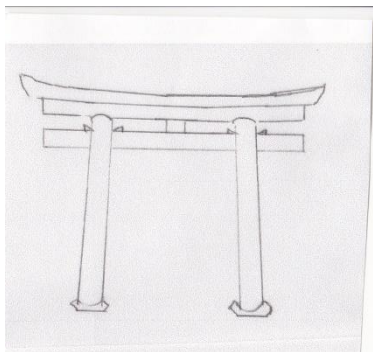
柱の転び（開き）は笠木のカーブで安定性を見せるために取り入れられたと言われていています。笠木が直線のA神明鳥居系でも転びがある柱はあります。

島木の下に台輪はあるものとないものがあります。固定性を高めるためでしょう。

柱の下部の台石の丸形を亀腹（饅頭）と言っています。ないものもあります。柱の安定感を演出しているのでしょう。もちろん柱が台石の上に立っているわけではありません。柱は土中に埋めこまれ土又コンクリートで固定されています。藁座（根巻とも）は柱の下部を保護しています。用語は仏教建築から出たものです。

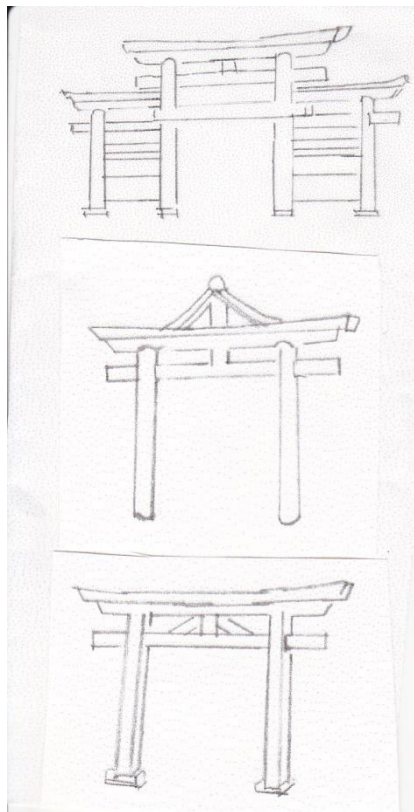
それでは B 明神系の代表的な鳥居の形を見てみましょう。

①明神鳥居形



上記モデルからもっとも良く見られる形です。笠木は六角の角材で、先端はたすき切り、台座があるものとないものがあります。朱塗りをしていれば稲荷鳥居形となります。皆さんの近くの神社にはほとんどあります。中には凝ったものがあり、柱に竜の彫り物をしたものもあります。（東京品川神社）

②三輪鳥居形



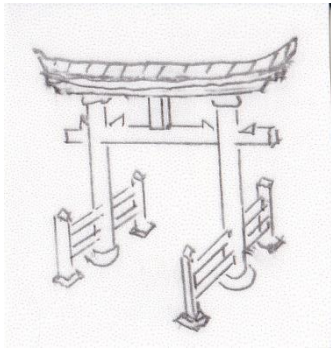
左右に袖鳥居、柱間に扉があります。奈良桜井市の大神（おおみわ）神社の鳥居ですが、外には少ない例です。

③山王鳥居形

笠木の上に据えられた合掌形。
日吉神社外には少ないです。

④住吉神社形

柱が珍しく格柱。
住吉大社以外では少ないです。



⑤両部鳥居形

両柱の前後に二本の控え柱片方3本、左右で計6本の柱。

笠木の上には屋根を設けています。

安芸の宮島の厳島神社が有名。屋根は両部形以外にも設ける鳥居もあります。

鳥居は足が2本の鳥居が圧倒的に多いのですが、上記のようなものの外にも三本鳥居も一例あります。(京都の太秦の木嶋神社一蚕の社)

現在最もよく見られる鳥居の形はB①明神鳥居形とA①靖国鳥居形です。しかし上記に示した形は標準形で実際の細部は鳥居によって違います。笠木の切り方が垂直切りと斜め切り(たすき切り)があります。島木と柱のつなぎ目にくさびや台輪があるものないもの。

柱が地面と接する所には、台石、亀石(饅頭)、藁座があるものないものもあります。

柱はB明神系はほとんど開いています(ころび)。一方A神明系は垂直が標準的と言われながら開いている例が多いと思います。

これ等を組み合わせますと80から100種類の形があると言われています。

ご近所の神社で見比べてご覧になってみてください。同じ神社でも種類の異なる形の鳥居があります。

神社と言えば鳥居ですが、神社以外にも使用されます。お神輿の飾りに鳥居がつけられます。これは良いとして外にもマークとして鳥居が利用されます。

立ち小便されやすい所やごみの不法投棄されやすい所に **卍** のマークを書き、「立小便禁止」、「不法投棄禁止」をうたいます。神の領域を示す神聖な門をこのように利用することは許されるのですね。

以上

2018年7月21日

梅 一声